

令和6年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）

**1【学校経営の理念】**  
**●教育目標「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」**  
**●校訓「貫徹 慎独 創造」**  
**●校是「和」**

<p>&lt;めざす学校像&gt;                  ○学ぶ楽しさを感じる学校                  ・学習環境の整備                  ・授業規律の確立                  ・小中一貫教育の推進</p> <p>○やる気と活気にあふれる学校                  ・自尊感情、自己有用感の育成                  ・個別最適、協働的な学びの実施                  ・個に応じた学習の充実</p> <p>○信頼され、安心・安全な学校                  ・危機管理体制の充実                  ・保護者、地域との連携の強化                  ・相談体制の充実（生徒・保護者・学校）</p>	<p>&lt;めざす生徒像&gt;                  ○「貫徹」                  困難に負けず粘り強くやり抜く生徒                  ・活力ある行動力の育成                  ・健やかな身体づくり                  ・地域貢献の実践</p> <p>○「慎独」                  心豊かで思いやりのある生徒                  ・人権尊重と慎独の精神の育成                  ・道徳的実践力の習得                  ・郷土愛の育成</p> <p>○「創造」                  自ら学び個性を伸ばす生徒                  ・主体的な学びと確かな学力の向上                  ・豊かな表現力の育成                  ・地域文化の学びと継承</p>	<p>○信頼される教職員                  ・高い使命感、倫理観、授業力                  ・誠実かつ迅速な行動                  ・生徒への共感的理解</p> <p>○教育愛に燃える教職員                  ・学び続ける教職員                  ・高めあい協働する教職員                  ・師弟同行：生徒と向き合い、生徒と共に汗を流す教職員</p> <p>○研修に励む教師                  ・教えるプロとしての資質能力と指導力を高める教職員</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**2【本年度の教育の重点課題】**

- 1 自立して未来に挑戦する態度の育成  
 ①校訓を生かした教育活動を推進する。②「あたり前のことがあたり前にできる生徒」の育成を図る。③「自己教育力」を育むための主体的活動を推進し、自立心を高める。
- 2 「生きる力」を育む教育の推進  
 ①「確かな学力」の育成②「豊かな心」の育成③「健やかな体」の育成④特別支援教育の充実⑤小中一貫教育の推進
- 3 生徒の学びを支える環境の充実  
 □学校の組織力の強化と生徒指導の充実  
 ①生徒会活動や学級活動での生徒との人間的なふれあいによる心の絆を深める生徒指導  
 ②風通しの良い職場環境づくり  
 ③ICTの活用による共通理解、共通実践（報道相）の徹底  
 □家庭・地域による学校と連携した教育の推進  
 ①スマートフォンやゲーム等、ネットメディア利用についての指導の徹底と保護者への注意喚起  
 ②子育て応援課やスクールソーシャルワーカーと連携した家庭支援の推進  
 ③学校運営協議会を核に地域人材を活用した教育活動の展開と地域活動（クリーン作戦・防災訓練・地区運動会等）への積極的参加・参画  
 ④「そうあんの日」（第2・第4水曜）、「創造の日」や「八鹿青溪の日」（毎月8日：八鹿青溪中の教職員・生徒としての自分を振り返る日）、お手伝い（お手伝い大作戦）の推進  
 ⑤オープンスクールの実施、学級・学年・学校通信（校報）の発行、ホームページの更新等による学校情報の発信  
 □教職員の資質・能力の向上  
 ①実践的指導力の向上と「チーム八鹿青溪」として協働・認め合う職場づくり  
 ②「主体的・対話的で深い学び」と「指導と評価の一体化」を推進するための校内研修の充実  
 ③教育公務員としての自覚と高い倫理観の保持、「No! 体罰」の徹底、生徒と心の通い合う温かい人間関係の構築  
 ④勤務時間の適正化(定時退勤日の徹底・会議時間の短縮・業務改善)の推進による「ワーク・ライフ・バランス」の 充実と生徒と向き合う時間の確保

<p>&lt;各項目評価について&gt;                  A・・・自己評価において達成率が75%以上                  B・・・自己評価において達成率が60%以上、75%未満                  C・・・自己評価において達成率が60%未満</p>	<p>&lt;学校の取組状況及び改善の方策等について&gt;                  ○・・・成果                  ▲・・・課題、改善点                  ※・・・改善の方策等</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	主な評価項目・取組内容	各項目評価 R6	達成状況	学校の取組状況(○・▲)及び改善の方策(※)等	学校関係者評価
教育目標・開かれた学校・職場づくり等	1 学校教育目標である「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」は達成されていると思いますか。		B	<教育目標・開かれた学校・職場づくり等について> ○校訓については、「貫徹坂」、「慎独の道」、「創造の庭」などにも使われていることもあり、浸透している。 ○全校集会での学校長の講話で多用されるなど校訓は十分に活用・浸透している。	<教育目標・開かれた学校・職場づくり等について> ・学校HPの更新も頻繁で、学校の様子が写真などで伝わり、良い取組であると思う。学校と子ども・保護者の距離が近くに感じられる。 ・校長を先頭に八鹿青溪中学校の教育の充実、進展のために懸命に取り組んでいることに敬意を表す。
	2 校訓である「貫徹 慎独 創造」の理念は学校教育に生かされ、達成されていると思いますか。		A	○校訓が教育活動のいろいろなところに使われ、浸透している。 ○HPの迅速な更新で、学校における教育活動の様子が発信できている。 ○HP更新の流れが以前にも増して良くなった。	・学校だよりが多く発行されており、情報発信は良い。 ・地域とのつながりについては、学校から距離のある住民にとっては、中学校は少し遠い存在に感じる。
	3 「学校教育目標」と「校訓」は保護者や生徒に浸透し、願いが共有されていると思いますか。		B	○HPによる情報発信は、昨年度以上に頻繁に発信されており、学校の様子がよく分かって良い。自らもHPづくりに貢献したい。	・保護者や学校運営協議会の委員であれば接点はあるが、自分が一住民であれば、中学校とのつながりを感じるのには難しい感じがする。そんな人々とのつながりをどのようにできるか考えていかねばと思う。
	4 通信の発行やHPによる情報発信、オープンスクール・授業参観等の開催により、「開かれた学校づくり」が推進されていると思いますか。		A	○YBファブにも学校通信が置いてあるのを、他市の教員が驚いていた。 ○校報の積極的な発行、HPの頻繁な更新など情報発信はかなり積極的に行われている。	・さまざまな場面で校訓の話がされており、生徒たちの考え方の基本となっている。
	5 SSWやSC、保護者・地域等との堅固な協働体制のもと、「チーム八鹿青溪」として組織的に学校運営が行われていると思いますか。		A	※従来からやってきたことを省くのに勇気が要するが、それをしないと業務削減にはならない。なんとなくいつもやっていることにどんな意味があるか考え、思い切って自分の仕事を削らなければならないと思う。	・HPの更新が迅速で家庭や地域への情報発信が積極的になされている。
	6 コミュニティスクールとして、地域の核となる学校づくりが進められていると思いますか。		B	○不登校傾向にある生徒が学校に来られているのは、不登校支援ルームの存在や不登校支援員のサポートが大きいと感じている。 ※不登校指導に傾注するがあまり、学校に来ている生徒の指導を疎かにしてしまわないように職務にあたりたい。	・教師がオーバーワークで体調やメンタル面に不調をきたさないように業務の見直しや削減は必要だと思う。
	7 風通しの良い、ハラスメントのない職場づくりが推進されていると思いますか。		A	※不登校や不登校傾向の生徒とSSW、SCとのカウンセリングする機会を増やし、生徒の情報や専門的なアドバイスをもらうことで多面的な見方で生徒を理解し、登校につなげていければと思う。	・学校の落ち着いた雰囲気・元氣なあいさつ、いつ行っても気持ちが良い。学校運営における基本理念が確立されている。
	8 「勤務時間の適正化」によりワークライフバランスが保たれ、生徒と関わる時間の確保や自分自身の充実が図られていると思いますか。		B	○ことあるごとに非違行為の防止について管理職より話をしているが、職員にはよく浸透していると感じる。	・自治協も生徒と交流できる行事は主体性を持たせた取り組みにしていきたいと思っている。
	9 学校行事は生徒の主体性を培う内容・方法で行われていると思いますか。		B		・社会人で管理職、技術職と大きく振り分けられることになる。そこで、校訓の【貫徹】困難に負けず粘り強く継続できるかどうか。地域社会（仕事の現場での姿を見て）良い所もしんどい所も見て耐えられるかどうか。【慎独】そこで、芯の強い心が育成されるかどうか。自身の優しさだけでは無く喜怒哀楽の中で律する事が出来るかどうか。【創造】自分が何をしたいかを気付く訓練を身につける。この社会でどう感じ取るかがひとつだ。
教科等指導	10 「確かな学力」の定着を図る教育活動が推進されていると思いますか。		A	<教科等指導について> ▲学力の2極化の問題の解決方法を探っていく必要を感じる。	<教科等指導について> ・ICT機器を活用して効果的に授業づくりが行われている。生徒にとって「分かりやすい」「楽しい」授業となっている。
	11 授業時数の確保が図られ、教育課程が適正に管理されていると思いますか。		A	▲個別最適な学びや確かな学力の育成のために努力はしているが、低学力の生徒でも取り組めるものや逆に高学力の生徒にとっても学びになる授業作りは難しいと日々感じている。今後も研鑽を積みみたい。	・ベア・グループで考える授業はとても効果的だと思った。
	12 発達段階、教科の特性に応じた学習規律が確立されていると思いますか。		A	※授業時数の確保はできている。「個別最適な学び」や「協働的な学び」については、それぞれが実践できているが、さらに継続的な研修を積み重ねることが大切であると感じる。	・教科指導の基盤は学級経営にあることは言うまでもない。
	13 生徒の学ぶ意欲・関心(主体性)は高まっていると思いますか。		B	○例年に比べ、学習指導に対する評価は軒並み高まっている。 ※「個別最適な学び」や「協働的な学び」については日々研鑽が必要である。	・教育機器が格段に進歩し、授業に欠かすことはできないものになっているが、「読み・書き、そろばん」の基礎基本を忘れてはいけない。
	14 TT(同室複数)指導、少人数指導の運用は適正・効果的だと思えますか。		A	○「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくりが進んでいる。 ○学習目標の提示がしっかりとできている。	・生徒間でディスカッションしながら授業を進めているのは良い。たまに、輪に入っていない生徒も見られるが、上手に溶け込めるように指導していただきたい。
	15 基礎・基本の定着は図られていると思いますか。		B	▲最終の振り返りが不十分な教員がいる。 ※養父市教育研修所の研修を生かし、教室環境・授業・人的環境のUD化を意識して取り組むと良いと思う。教師の指導力ももちろん大切ではあるが、子どもたちは何よりも空間や雰囲気学び、学力を獲得する。	・生徒どうして教え合い、相談しあう環境はできているように思う。
	16 個を伸ばす指導や個への配慮に努めていると思いますか。		A		・学力の2極化を解決するための取り組みや研修を継続して、生徒それぞれの学習意欲を高めていってもらいたい。
	17 新学習指導要領の移行措置に適切に対応するとともに、「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善に努めていると思いますか。		B		・ICT機器活用で学習意欲は向上していると思うが、家でのタブレット活用が少ないのはなぜか。
	18 生徒は総合的な学習の時間に意欲的・主体的に取り組んでいると思いますか。		B		・対話的授業の成果なのか自分の意見を言える生徒が増えたと思う。
19 食育計画に基づき、組織的・計画的に食育指導が行われていると思いますか。		B		・授業参観では毎回新たな工夫が見られ、授業改善されていると感じた。また、生徒の実情を考え、課題解決のための取り組みにも前向きである。	
小中一貫教育	20 小中一貫教育のねらいである「中1ギャップの解消」「学力向上」「地域の活性化」に沿った取組が行われていると思いますか。		B	<小中一貫教育について> ▲「そうあんの日」の取組について評価が必要だ。 ○定期的に小中一貫教育部会が行われ、小学校の先生方と交流できるので嬉しい。たくさん学べる場になりたい。 ※「そうあんの先生」の教えは、教室に掲示しているだけになっているので短学活で活用していきたい。	<小中一貫教育について> ・「そうあんの日」の取組は個人の自主性に任せているために、結果として取組が形に残っていないように思う。モチベーションに繋がっているとは考えにくい。
	21 小中一貫教育は、組織的・系統的・計画的に推進されていると思いますか。		B	▲「そうあんの日」をより良いものにするために指導したい。 ▲5つの力点や家庭学習のすすめ、自学の手引きなどが風化してしまっているように感じる。見直しも含めて、再度周知徹底ができないか。	・小規模小学校では、多くの人と交わる力がつかないのではと一般的に心配されるが、小学校どうしでも、小中一貫であっても大勢の中で学習ができる機会を計画的に多く作ることが大切だと感じる。
	22 小中一貫教育(6年生登校、部会、全体会等)を通して、校区小学校の教職員や児童への理解が深まっていると思いますか。		A	※6年生登校時の縦割り掃除はリーダーが的確に指示を出したり、6年生にも緊張感があり良かった。給食の準備指導を生徒会保健部が行ったり、6年生と中学3年生の合同授業(例えば英語とか)を行ったりすることで、先輩への憧れを感じさせた。 ○相互授業参観の取組は、小中の教員がそれぞれの児童生徒や学校の指導の様子を知る良い機会になっている。	・小中ともに青谿書院に見学に行くようになり、池田草庵先生の教えを一貫して学ぶ機会ができて良いと思うが、行くだけでなく、学んだことのフィードバックができるとさらに成果が見えてくると思う。
	23 「そうあんの先生」の教えと「そうあんの日」の取組は組織的・系統的に推進されていると思いますか。		B		・草庵先生の教えは浸透しているが、「そうあんの日」などの取り組みが小中で連携できているのか検討する必要があると思う。
キャリア教育	24 「自己教育力」を促す指導、自律性を高める指導が推進されていると思いますか。		B	<キャリア教育について> ▲キャリアノートを有効に使う時期が難しいと思う。 ※小学校から引き継がれた「キャリアノート」や「キャリアパスポート」をどのように活用していったらいいか考えていきたい。	<キャリア教育について> ・進路学習を通じて、生徒に将来の夢や希望、卒業後の進路について考えさせる指導を行っていると思う。
	25 あたり前のことがあたり前にできる生徒の育成が図られていると思いますか。		B	※様々な教育活動において、キャリア教育の視点を持って指導に当たることが肝要である。 ▲キャリア教育の推進に、教員の不安感が見て取れる。全職員での確認が必要。	・以前から「あたりまえ」という言葉については、少し疑問を持っている。あたりまえを押しつけるのではなく、逆の視点で「あたりまえでない」ことをできることが大切であることに気づき、あたりまえの裏には感謝の気持ちがあることを感じられるようになってほしいと思う。
	26 キャリア教育は生徒の発達や学年の系統性を踏まえた内容・実践になっていると思いますか。		B		・生徒たちが進路や将来の夢などを具体的に考えるための情報提供も必要かと思われる。
	27 生徒が主体的に進路選択・決定ができるような指導がなされていると思いますか。		B		・キャリアノートは自分を見つめ直すもので、先生のアドバイスにより自分の成長に気づくこともある。的確なアドバイスをお願いしたい。

	主な評価項目・取組内容	各項評価 R6	達成状況	学校の取組状況(○・▲)及び改善の方策(※)等	学校関係者評価
特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育	28 インクルーシブ教育システムの構築に向けて、施設や設備の整備、教材や指導体制等の工夫が図られていると思いますか。	B		＜特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育について＞ ＜特別支援教育＞ ▲サポートファイルや指導計画を作成したあと、広く周知する機会を得られていないので、学年でも担当でも気をつけていきたい。 ▲通級の各対象生徒について、どのような指導が実施され、どのような成果がみられるのか情報が伝わってこない。せめて学年職員間で共有したい。 ※WISC等の検査結果が通級以外で活用されていないように思う。教育活動の多くを占めるのは通常授業であることから、特別支援についての研修が必要なのではないかと思う。視覚・聴覚・書き取り支援など。 ＜道徳教育＞ ○研修を通してたくさんの方のことを学んでいる。 ○YABUスクールチャレンジを通して良い方向に進んでいると思う。我々教師の意識も高まっていることもあり、生徒たちの道徳科の授業があった次の日の自分ログに授業の記述があったり、日常の会話で道徳科の授業で学習したことが生徒の口から出てきたりすることが増えたように思う。 ○全学年・全学級で道徳科の授業の活性化が図られていて大変良い。ローテーション授業も取り入れられているが、道徳の授業者は原則担任という理解もあり大変良い。さらに研修も充実させていきたい。 ＜人権教育＞ ○ALTの掲示板でも国際理解教育がされていると感じる。 ○同和教育に対する教員の研修が充実した。 ○防災教育	＜特別支援教育・道徳教育・人権教育・課題教育について＞ ・配慮を必要とする生徒に対して適切な指導の充実が図られていると思う。 ・校内支援体制が適切に整備されている。「サポート室」等。 ・自然災害、交通安全、SNSトラブルなどの対策についてさらなる安全教育を充実させてほしい。 ・立ち番指導、毎朝校内での立ち番、ご苦勞様です。 ・道徳教育について、自主的に授業探究をしているとは、個々の教師のスキルアップにつながり、道徳科の指導力向上に役立っている。そのことが、他の教科指導にも生かされている。また、学校全体として取り組むことは、教師相互の理解や協力も得られ、チームとしての連帯感も深まっている。 ・各学年の入口にその日その日のめあて等、教員によるさまざまな一言が書かれており、簡易な言葉であっても生徒に対する優しさを感じたし、本当に感心させられた。 ・先生方の道徳研修が生徒たちの日常にもよい影響が出てきているのはすばらしいことだと思う。さらに道徳教育に手厚い学校になってもらいたい。 ・自分も他人も大切にしようという人になってくれるように教えていってほしい。 ・道徳教育が生徒にとってよりよい学びとなり、高評価につながることを期待する。 ・交通安全・防災教育は学校の指導も大事だが、生徒自身がそれらの危険箇所、危険動作を把握しているかが大事である。 ・衛生面では、潔癖すぎるほど完備されているが、喉元過ぎればなんとやらで、事が収まると、アルコール消毒、手洗いやうがいが続けるもなかなか難しい時期にきている。
	29 校内教育支援委員会のもと、個別の指導計画・教育支援計画が作成され、全職員の共通理解のもと、個に応じた指導・支援が組織的に進められていると思いますか。	B			
	30 生徒や保護者との合意形成のもと、小中・中高の「支援の引継ぎ」が組織的・継続的に進められていると思いますか。	B			
	31 「豊かな心」の育成を図る教育活動が推進されていると思いますか。	B			
	32 自他の生命を尊重する態度は育ちつつあると思いますか。	A			
	33 「教科書」をはじめ「兵庫版道徳教育副読本」が効果的に活用されていると思いますか。	A			
	34 道徳の評価を行うにあたり、学年職員で協力して評価内容・方法の検討を行ったり、共通実践を行ったりしていますか。	A			
	35 ネットいじめやDV、多文化共生、男女共生、性的マイノリティなどの人権課題をとりあげ、校内研修を行うなど、人権尊重の精神涵養に向けた取り組みが進められていると思いますか。	A			
36 防災教育など、健康・安全に対する指導は、的確に行われていると思いますか。	A				
学級活動・生徒会・部活動	37 生徒の自治性や主体性を引き出す生徒会活動が行われていると思いますか。	B		＜学級活動・生徒会活動・部活動について＞ ＜学級活動＞ ※学年職員で連携しながら対応したい。 ※クラス内係活動の比重がもう少し平たくなればと思う。(学習・文化が大変、美化が手持ち無沙汰)人的環境のUD化について気になることがあった時は個別に話をしたり、SHRで話をしたりするなどしてその都度生徒たちに考えさせている。3学期も気を緩めずに指導にあたりたい。 ※生徒の主体性・自己教育力を育む教育を進めたい。中学校の3年生を「守破離」という武道の精神で表すことがある。それぞれの学年で方針と見通しを持ってリーダーの育成や自治的な学年学級作りを進めていきたい。 ▲主体性の発揮のために「～キャンペーン」と銘打っての取組をしているが、それではさせるだけの取組で終わってしまう。そのもう一つ先のねらい(絆を作り・深める)を持つと「～キャンペーン」ではない表現のさらに温かみや目的感のある取組が実践できると感じる。 ＜生徒会活動＞ ※月別の重点目標(○○月間)はそれを活用して教育活動が行われていくと思うので、生徒会担当だけでなく、複数の目で考えていけると良い。 ※もっと生徒会本部の活動も欲しい(○○委員会とコラボなども) ※体育祭、合唱コンクールなど大きな行事があったが、どれも大成功だったと思うが、これからもより生徒が主体的に活動するために指導者がどう準備し、どう支援すべきかを考え、さらにより特別活動にしていきたい。 ＜部活動＞ ※どうしても手が回らないことがあるが、他の先生方も忙しそうなので横で部活をしている先生に頼ってしまうことが多かった。教師が付けない時は今後も個別にお願いしていく形でよいのか、それとも部活動担当に報告をして体制を決めるのが曖昧である。 ▲部活動でこそ活躍できる生徒もいるが部活動がどこまで学校教育として関わっていくかが難しいところである。 ▲始業式や終業式の日には部活動をやらない学校も多い。カットできるところはカットしていかないと業務改善に繋がらない。 ○冬場は活動時間が短くなり、その分教員も業務を進める時間として助かっているところがある。 ※授業だけでなく、部活動でも支援が必要な生徒が多い。不登校傾向の生徒も多いため、受け皿になるような部活動(文化部系)が必要。学校に生徒の居場所を作っていくことが大切だと思う。 ※地域移行が挙がる中、やはり部活動の必要性を感じる。学校生活に合わせた指導が必要であるのではないかと感じる。 ○夏休みの部活開始時間を早める措置は熱中症対策として良かった。 ※部活動は生徒にとって成長・活躍する場でもあることから継続が望まれるが、教員のボランティア精神の上になり立っている現状には課題がある。練習時間の短縮、地域人材の活用等。	＜学級活動・生徒会活動・部活動について＞ ・各学年での取組や生徒会活動、委員会など生徒の主体的な取組の成果が表れていると感じる。さらに充実した取組をめざして頑張ってもらいたい。 ・各部活動がたいへん活躍していることは素晴らしいと思う。その経験は継続・主体性・協働性の成長に大きく繋がると思う。 ・部活動顧問の先生の負担軽減が今後の課題。外部指導者へ移行など。 ・生徒同士と一緒に話し合い考える姿が見られることは良い方向であると思う。 ・部活動について、昔は、顧問がいても活動の時には生徒だけで取り組んでいたように思う。部活動を縮小せず、自主性を持って活動ができるようにすることも必要かと思う。 ・学級活動や生徒会活動において、生徒の主体性を重んじた新たな取り組みを検討してもよいのではと思う。 ・部活動は熱中症対策や教師の負担軽減のため、活動時間や活動日数を臨機応変に調整して良いと思う。 ・受け皿になるような部活動は必要かと思う。(週に数回、指導者は外部にお願いする・・・等 生徒や学校の負担が少なく、なおかつ生徒が充実した時間を過ごせるような部があればと思う。) ・大きな学校行事において、生徒間の協力、支え合い、助け合いが感じられ、楽しめたと同時に生徒の主体性も垣間見えた。 ・充実した中学生を送るのに部活動は重要だと思うが、指導方法、部活動のあり方など生徒の思いを聞き、検討課題にする必要がある。 ・生徒の自主性や主体性について現場で見ることがないので分からない面もあるが、地域に密着して同じ行動を共にすれば見方も見えるかもしれない。一番身近に感じるのは、トライやる・ウィークで現場に携わっている方も知れない。 ・部活動は今後どの様になっていくのか知りたい。地域移行するとどの様になるのか等。
	38 専門委員会の活動は継続的・発展的に進められていると思いますか。	B			
	39 互いに高めあおうとする集団になりつつあると思いますか。	B			
	40 部活動を通して生涯学習・スポーツの基礎となる豊かな心やたくましい体が育っていると思いますか。	A			
	41 一人一人が生かされる学級づくりができつつあると思いますか。	B			
生徒指導	42 規範意識の育成に努めていると思いますか。	A		＜生徒指導について＞ ※どんな指導も最後は親と本人の考え方や頑張りによって存しているため、手が出しにくい部分もあると感じる。一方で、子どもが変わってこそ指導といえる部分もあるので、引き続き頑張りたい。持続可能な生徒指導をもっと深く考えて、学年や関わる職員間での情報共有や対応の味を今後も行いたい。 ※管理職が言うように、細かいこともキッチリと指導していく姿勢を全職員がもつ必要がある。その姿勢が高まると生徒指導日誌の内容も濃くなり、本校の生徒指導の体制が本当の意味で一枚岩になると思う。 ▲組織的な対応も必要であるが、突発的・瞬発的な対応が遅れていると感じる。また、ただ報告、連絡しているような雰囲気があり心の底からの対応が必要であると感じる。 ▲不登校生徒に寄り添うというより、決まった形になんとか入らせようとする指導をせざるをえない。最終目標は教室復帰であっても、その段階までにはたたくさんの選択肢があったほうが良いのではないかと感じる。 ○生徒指導主事を中心に共通理解を図りながら、組織としてしっかり進めている。 △※問題が起こる瞬間に立ち会うのは多くの場合一人の教師。そして、その教師に指導するかしないかやどう指導するか判断が任せられる。その際に、本校の指導基準を把握して指導できているかなど教師「個」の力量が求められる。そのレベルアップのために、職場の話しやすい雰囲気や語りやすい雰囲気等を皆で意識し、日常の研修(OJT)を大切にしていこう。 ○いじめの早期発見・早期対応、積極的認知は図られている。 ▲主体性を伸ばす場面が少なく感じる(一方で、主体性をうたい文句にして生徒に自由に選択させることは良くないので、その加減も考える必要がある)。 ▲「当たり前のことが当たり前」にできる生徒の育成」と「主体性を培い、自己教育力の育成」は順序があるわけではなく補完関係にある。本校では後者の仕掛けをもう少し研究実践してもよいと思う。 ※あいつをする、返事をする、時間を守るなど当たり前のことをできている生徒は多いが、よりよくできる部分があると思う。こちらが見本となる行動をとること大切だと感じる。 ※不登校や不登校傾向の生徒とSSW、SCとのカウンセリングする機会を増やし、生徒の情報や専門的なアドバイスをもらうことで多面的な見方で生徒を理解し、登校につなげていければと思う。	＜生徒指導について＞ ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組んでいると思う。 ・パソコン、タブレット、スマホ使用に対する指導が益々必要になってきている。 ・SNSによる誹謗中傷、拡散が後を絶たない。とりわけ、こうしたことによるいじめ問題も多発している中で、不登校になっている子、ニートになっている子の多さに驚く。学校は言うまでもなく、生徒個々の「知・徳・体」のバランスのとれた育成を図ることにあり、受け入れた全ての生徒一人一人を大切に、溢れる愛情を持ってひとりの生徒も決してない取り組みを今後もお願いしたい。 ・いくら熱血漢溢れる教師でも、押しつけの強い教え方や管理的な指導を嫌う生徒も多い。生徒一人一人を理解し、優しさに溢れる指導に心がけ、学校が楽しく居心地が良く、多くの友と一緒に学習できる場であってほしいと思う。 ・表面的に見えることだけで判断せず、心の中をくみとり、思いやりの持てる教員になってほしいと思う。みんな良い生徒であるように思う。家庭的にも学校内の指導でも問題は少ないのだろう。 ・校内支援ルームで学習している姿を見た。このような形で登校できるのは良いと思うが、成果として何か良い変化ができてきているのか。 ・指導の難しさや課題を窺い知ることができている。 ・生徒本人の頑張りを引き出すために家庭の役割も重要だと感じる。 ・学校と家庭、先生同士の連携や協力により生徒に向き合った指導がなされるようにお願いしたい。 ・不登校傾向にある生徒の居場所確保、支援員によるサポート、教室に入れない生徒にはオンライン授業など、生徒の気持ちに配慮しての取り組みが生徒の登校に繋がっている。また相談しやすい雰囲気づくりに力を入れていただきたい。 ・生徒アンケートで「いじめ」は起こっていないと思っている生徒は94%、100%ではない。ただ、学校へ行くことが楽しいと答えた生徒が昨年より10%増えている。引き続きよりよい環境づくりを心がけていただきたい。 ・相談する側は、早急な対応を求めるが、相談を受ける側は慎重にせねばならないことがある。対応する際には、じっくりと共有する為の話し合いに時間を要する。そういった対応のための訓練が必要と思われる。 ・校則について、生徒が自発的に検討ができているか。 ・服装について柔軟な対応を。冬季防寒着の着用等。
	43 いじめの積極的認知や生徒指導に係る情報交換が行われ、安心・安全な学校づくりが進められていると思いますか。	A			
	44 i-チェックや生活アンケート、いじめアンケート等による実態把握や教育相談等を通して、生徒理解を深める工夫がされていると思いますか。	A			
	45 生徒指導の4機能(自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する、安心安全な風土づくり)を意識した指導を行っていると思いますか。	A			
	46 家庭と連携した指導がとれていると思いますか。	A			
	47 指導に対する教職員間の共通理解、「報連相」は十分にできていると思いますか。	B			
	48 職員研修の推進方法・内容は現状でよいと思いますか。	A			＜職員研修・教職員の育成・資質の向上・その他について＞ ○道徳や教諭についての研修があり、勉強になった。 ※来年度は道徳科の授業の型(進め方、板書の仕方など)なるものを模索していきたい。さまざまな研修があるおかげで視野が広がったり学びになったりすることが多くてありがたい。 ※YABUスクールチャレンジで道徳科について深く研修しているが、校内研修においても「テーマ性」(仮説を元に全職員が一貫して取り組む研究)を持った研修ができることさらに良いと思う。 ○授業改善のための時間確保に課題意識が高い。 ○OJTは前年に比べ活性化している。 ○研修への意欲が高まってきている。 ※道徳研修3年目になるので、さらに深化した研修を推進する。
49 兵庫県資質向上目標に基づきながら、「確かな学力」を育成できる教師として常に教材研究や修養に努めていると思いますか。	B				
50 指導力向上、学力向上に向け、授業参観や助言を行うなど、互いの力を高める努力を行っていると思いますか。	A				